

社 会 科

大塚 有将

岡田 哲典

金田 哲也

共同研究者 加藤 隆弘（金沢大学）

1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

(1) Society5.0とは

内閣府によれば Society5.0 とは、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する，人間中心の社会（Society5.0）」であり、「狩猟社会（Society 1.0），農耕社会（Society 2.0），工業社会（Society 3.0），情報社会（Society 4.0）に続く，新たな社会を指すもの」とされる。では一体その社会はどういった社会なのか，日本の政府や各団体が示しているものからその姿をとらえる必要がある。

まず，この未来の社会の姿について初めて言及されたのが，政府が策定する「10年先を見通した5年間の科学技術の振興に関する総合的な計画」（平成28年1月22日『第5期科学技術基本計画』）であり，そこでは「超スマート社会（Society5.0）」として説明されている。「必要なもの・サービスを，必要な人に，必要な時に，必要なだけ提供し，社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき，あらゆる人が質の高いサービスを受けられ，年齢，性別，地域，言語といった様々な違いを乗り越え，生き活きと快適に暮らすことのできる社会」と述べられている。それが内閣府が定義した Society5.0 の「人間中心の社会」に該当するものである。また，経済発展への課題として，単なる大量生産の画一化された工業製品は，他の人件費の安い新興国に値段の上で太刀打ちができなくなっている現状は経済産業界では知られていることである。しかし，「超スマート社会」の考える通り，コスト削減と高品質を維持しながら一人一人に合ったサービスや財を提供することができれば，新興国の工業とは異なる価値を生み出すことができる可能性が広がる。また，コストや資源のロスを減らしながら，様々な社会的諸課題にも，様々な能力を持つ人間が様々なニーズを持つ人々と漏れ無くつながることで解消される可能性を持っている。これらを「仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステム」で実現していく，というイメージであろうと考えることができる。

(2) Society5.0に向かう教育の在り方について

この未来の社会への考え方を受けて，文部科学省では Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会で「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる，学びが変わる～」をまとめ，また，経済産業省も『「未来の教室」と EdTech 研究会第一次提言』において教育について述べ，両者に共通して今後重視されるべき方向性が「（公正に）個別最適化された学び」であるとしている。

「個別最適化」とは文部科学省の大臣懇談会においては，「児童生徒一人一人の能力や適性に応じて」最適化することを示し，経済産業省の「未来の教室」においても「子ども達一人一人の個性や特徴，そして興味関心や学習の到達度も異なることを前提にして，各自にとって最適」であることを示している。これらはまさに先述の目指すべき社会の姿である「超スマート社会」の様子であることがわかる。つまり Society5.0 の社会を目指す教育を進めるにあたって最も大切な考え方の一つが「個別最適化された学び」を得る機会をどのように生み出すか，ということになる。

しかし，そのような社会の実現にはその「人間中心」「人道的」な考え方と手段を良しとする考え方

を多くの人が持つことが必要だが、それを実現する技術やサービスの発展もまた不可欠である。

そして教育においてはその根底に「**多様性の尊重**」があることは欠かしてはならない視点であると考える。

また、文部科学省は「**(公正に) 個別最適化された学び**」以外に2つ取り組むべき方向性を示している。その一つが「基礎的読解力、数学的思考力などの基盤的な学力や情報活用能力をすべての児童生徒が習得」することである。

ここで、「公正に個別最適化」されたものを目指しながらも、「全員」に身に着けさせるべき「基礎的」「基盤的」な学力が必要だということに矛盾があるように見えるかもしれないが、ここでは基盤的な学力をどのように身に着けるかが、学び方を個別最適化されたものにする方向性と考える。そう考えたときに、本校研究でも「多様性の尊重」を重視しつつ、「基盤的学力」や「情報活用能力」のような資質・能力を身につけられるように教育を行うことは重要である。

「読解力」や「情報活用能力」は、Society5.0時代においてAIや高速通信によりビッグデータをだれもが扱い、情報処理はAIがアルゴリズムに応じて学習していくからこそ、人間の強みであるコンテキストなどを踏まえた読解力や思考力、情報をどのように活用するかという点を伸ばす必要があるということだろうと考えられる。さらに、AIには意思が存在しないし課題意識も無く、一見すると関連性のない情報を関連付けて新たな価値を生み出すこともできない。人間の強みはその点にこそあると考えられる。

(3) Society5.0を目指す学校教育

ここまで述べたように、課題を見つけ、知識や情報を創造的・論理的に思考し、解決策を見出すという営みこそ人間の強みである。そしてその力はそれが求められる状況になってこそ発揮され、育成されるはずである。

つまり、今後教育に求められるのは、来るべき超スマート社会(Society5.0)において、多様性を尊重する前提の上に、その多様な人々に個別最適化された学びを保証すること。そして実際に課題を解決していく取り組みを通して、情報や知識を活用し、多様な社会的課題を創造的・論理的に解決できる力を育成することと考えられる。

また、本校の学校教育目標において、「将来、社会的使命を果たす生徒」の育成を掲げており、目指す生徒像として第一に「自ら考え学び、創造する生徒」を挙げている。よってSociety5.0の社会を共有し、その社会において自らの「社会的使命」を果たす生徒を育成することを目指すことは学校教育目標から見ても、必要な方向性である。

以上のことを実現していくにあたって、学校現場ではどのように考えていくべきなのか。Society5.0に向けての教育に関して、平成31年4月17日文部科学省の「新しい時代の初等中等教育の在り方について(諮問)の概要」が出されている。そこではSociety5.0時代の教育・学校・教師の在り方として、「**①読解力や情報活用能力、②教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、③対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要**」としている。

ここでは②のように従前の教科の学びを生かし、③にあるように対話・協働をもとに新しい解・納得解を生み出すことが必要であるとしている。ここから考えても課題を解決し、解を得るための活動の中で、様々な力を身につけていくことを重視されていることがわかる。

ここで、社会科という教科で、Society5.0の社会における教育を考える。社会科の目標にある「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して」「**公民としての資質・**

能力の基礎を」育成することは、先述の①②③の実現に向かっていくことと矛盾しないし、共通する点が多い。社会科の目標を目指すことは Society5.0 の社会における教育と当然ながら同じ方向を向いている。しかしながら、現状の社会科ではともすると課題の解決において、実践的よりも自分自身の身の回りの問題と距離がある場合も多い。

課題の解決という視点において、本校では平成 14 年から「21 世紀を担う生徒の育成を目指して」という研究主題で「問題解決力」の育成に取り組んできた。その中で、社会科は「思考力、判断力、表現力」の育成に重点を置き、問題解決力の育成に寄与してきた。そこでも問題解決はどのような力から実現するのか分析していた。

しかし、問題解決に必要な力については、先述してきた Society5.0 を想定し目指しての資質・能力ではなく、様々な問題解決のプロセスに必要な過程を分析し、必要な力をそれぞれの教科で育成していく取り組みであった。

(4) 本校研究における社会科

本校では創造的に問題を解決する能力の育成を目指し、注目したのは STEAM 教育である。STEAM 教育における学習指導としては、STEAM 領域の学習を現実社会での課題解決に生かした学習内容の実践が求められる。そして、現実社会の課題は、様々な要因が複雑に関わり合っているため、一つの教科の知識や技能を習得しておけば解決できるような課題ではないことより、教科横断的な学習内容を実践する必要があると考えられている。

そこで本校では、2 つ以上の STEAM 領域の知識と技能や見方・考え方を働かせて、現実社会の課題を解決する学習内容の実践を計画的に行なっていくことを目指している。

ここで社会科の果たす役割を考えたときに、着目すべきは「現実社会の課題」を解決する実践という点である。現実社会の課題の解決において「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して」、「公民としての資質・能力の基礎を」育成することを目標とする社会科はその重要なプラットフォーム的な役割を果たすことができるのではないかと考える。

そこで、本実践研究の目的を「課題を追究したり解決したりする活動」や「新しい解・納得解を生み出す」活動の授業実践を行う上で、先述までの Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力という新たな見方を持ち、それらの資質・能力を育成する取り組みにはどのような実践がより効果的か検証していくことと共に、各教科の実践のプラットフォームになる形を模索していくこととする。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) 教科等として育成する資質・能力について

学習指導要領社会編によると、社会科の目標は資質・能力の3つの柱に沿って以下の通り設定されている。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上記の社会科の目標は資質・能力の3つの柱に沿って設定されており、その資質・能力と「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力」との間で特に関連が深いと考えたのは以下の6つである。

①「持続可能な社会を志向する倫理観・価値観」

上記の目標の中には「よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う」とあり、関連が深い。

②「多様性の尊重」

これは目標の文言からは「他国や他国の文化を尊重することの大切さ」が相当する。

③「文章や情報を読み解く力」

これは、目標の文言からは「調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能」が相当する。

④「対話する力」

これは、目標の文言からは「選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」に含まれる。

⑤「論理的思考」

これは「選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」に含まれている。

⑥「批判的思考」

批判的思考とは証拠に基づく論理的で偏りのない思考のことである。多面的、客観的にとらえることで批判的思考が可能になる。これは、「多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ること」に含まれると考えられる。

⑦「よりよく生きようとする態度」

これは「社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う」に含まれると考えられる。

(2) 関連・連携を図った教科等について

数学科…課題発見や原因の調査など資料の読み取りが欠かせない学習の中で、数学の「数量の関係や法則などを考察する力」との関連が考えられる。

英語科…アフリカなど貧困問題によって困難を抱える地域へのチャリティーイベントを英語で提案するという学習内容などから関連を図った。

理科…「気象とその変化」や「生命の連続性」など、社会的事象がなぜ起こるのかの背景や原因を考える上で関連を図った。

道徳…C「主として集団や社会との関わりに関すること」には自他の権利を大切にすることや安定した社会の実現に努めること、公平に接することなどが明記され、人権を現在の社会の中で改めて考える活動の下地となると考え連携を図った。また、B「主として人との関わりに関すること」における相互理解の項目も関連を図った。

| 次 | 時 | 学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字） | 評価規準・手立て（○） 指導上の留意点（・） | 他教科等との連携・本校が定める Society5.0を主体的に生きるための資質・能力 |
|---|-----------|---|--|--|
| 1 | 1 | <p>■アフリカ州の自然や歴史と文化、産業の特色について、様々な資料を基に概観し、基礎的な知識を身につける。</p> <p>①雨温図から主な気候について読み取る。</p> <p>②ペアでの学習に取り組み、アフリカの歴史と言語環境のつながりを考察する。</p> | <p>○広大な砂漠をもつ自然、歴史や伝統文化、産業などの特色について理解している。【社会的事象についての知識・理解】</p> | 「文章や情報を読み取る能力」 |
| | 2 | <p>■アフリカ州の産業の特色について、主題図や貿易統計から読み取る。</p> <p>①アフリカ州の産業の構造について、主題図を基に読み取り、まとめる。</p> <p>②モノカルチャー経済の課題から、フェアトレードを日本で広めるためにどのような方策が考えられるかグループで考える。</p> | <p>○アフリカ州の産業と工業の特色や問題点を、様々な資料の関連づけから読み取っている。【資料活用 の技能】</p> | 「文章や情報を読み取る能力」 「論理的思考」 |
| | 3 | <p>■アフリカ州の課題を、資料やインターネットから得た情報を基に考察する。</p> <p>①教科書や資料集、インターネットを通じて、アフリカ州が抱える課題や、日本が行っている支援について理解する。</p> <p>②調べたことや、既習内容から更に知りたいことや追究したいことをまとめる。</p> | <p>○写真や表、インターネットで調べた情報から、アフリカ州では都市化が進む一方で、農村地域との格差や生活水準が異なることなどの課題を考察している。【社会的な思考・判断・表現】</p> | 「文章や情報を読み取る能力」 ・英語 |
| | 4 | <p>■南アフリカ共和国の現在の様子や、さらに知りたいことについて追究することを通して、アフリカ州に必要な支援について考察する。</p> <p>①南アフリカ共和国へ青年海外協力隊として派遣されていた赤塩氏へのオンラインでのインタビューを通して、より具体的なアフリカ州の現状について理解する。</p> <p>②グループ毎にアフリカ州の抱える課題と課題に対する支援策を立案する。</p> | <p>○青年海外協力隊員への質問や解答から、アフリカ州の現状について関心を持ち、意欲的にグループワークに取り組んでいる。【関心・意欲・態度】</p> <p>○インタビューした内容を基に、どのような支援策が考えられるのか思考している。【社会的な思考・判断・表現】</p> | 「対話する力」 「論理的思考」 |
| | 5 (本時) | <p>■複数の支援策の中から、優先順位をつける議論を通して、課題を追究し社会をよりよくしようと思ふ。</p> <p>①グループ毎に立案した支援策を基に、最優先となる案を生徒同士の議論によって考察する。</p> | <p>○多様な問題の中から、より根本的な課題に絞るために優先すべきものを選び、多面的・多角的に思考することができる。【社会的な思考・判断・表現】</p> | 「対話する力」 「批判的思考」 「よりよく生きようとする態度」 |

実践事例

社会1年

| | | | |
|--|-------|---|------------|
| 授業者 | 大塚 有将 | 授業日 | 11月 10日(火) |
| 授業クラス(時限) | | 関係・連携の考えられる教科等と学習内容 | |
| 1年1組～4組 | | 英語 program7「If you wish to see a change」 | |
| Society5.0を主体的に生きるための資質・能力 | | 教科等で身に付けたい資質・能力 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「対話する力」 ・「批判的思考」 ・「よりよく生きようとする態度」 | | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な問題の中から、より根本的な課題に絞るために優先すべきものを選び、多面的・多角的に思考することができる。【社会的な思考・判断・表現】 | |
| 実社会とのつながり | | | |
| <p>本単元では、アフリカ州における課題に対して、どのような支援方法が考えられるか思考する活動を行う。また、多様な課題に対して優先すべき理由を考え、議論する活動を通して、アフリカ社会の根本に生活基盤の不安定さがあることに気づかせたい。</p> <p>これらの活動を通して、社会に数多く存在する課題に対して、優先すべき問題を多面的・多角的に考え、選ぶことができる力につなげたい。</p> | | | |
| 本時の授業のねらい | | | |
| 複数の支援策の中から、優先順位をつける議論を通して、課題を追究し社会をよりよくしようとする。 | | | |
| 授業の流れ・活動等 | | | 時間 |
| 1. 前時に青年海外協力隊員にインタビューした内容や、グループ内で話し合ったアフリカ州の課題をグループごとに確認する。 | | | 5 |
| 課題：アフリカ州における課題に対して、どのような支援や対策ができるのだろうか。 | | | |
| 2. グループごとに、アフリカ州の多様な課題の中から、最優先に取り組むべき課題を決定する。 また、選択した課題に対して、考えられる支援の方法や解決策をホワイトボードにまとめる。 | | | 13 |
| 3. グループごとに支援方法を1分ほどで発表する。 (優先すべきと判断した理由について、根拠を明らかにして発表する。) | | | 12 |
| 4. 9つのグループから提案された課題と支援方法を元に、どの課題に対して優先的に取り組むべきか、クラスで議論する。 | | | 15 |
| 5. 本時の学習の振り返りと、単元を通して考えた自分の意見をまとめる。 | | | 5 |

3年 単元名「3節 これからの人権保障」

単元計画（4時間扱い）本時は4時間目

| 次 | 時 | 学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字） | 評価規準・手立て（○） 指導上の留意点（・） | 他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力 |
|---|---------|--|---|--|
| 1 | 1 | <p>■産業や科学技術の発展は人を幸せにするのか、人権尊重の視点から考える。</p> <p>①新しい人権に対して、具体的な事例から関心を持つ。</p> <p>②産業の発達と新しい人権について関心を持つ。</p> <p>③医療など科学技術の発展と新しい人権との関連に対して理解する。</p> | <p>○産業や科学技術の発展によって、人権が侵害されるおそれが出てきたことに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】</p> | 「持続可能な社会を志向する倫理観・価値観」 |
| | 2 | <p>■情報化の進展は人を幸せにするのか、人権尊重の視点から調べる。</p> <p>①知る権利や情報公開制度について、身近な事例から調べる。</p> <p>②プライバシーの権利や個人情報保護制度について、身近な事例から調べる。</p> | <p>○知る権利、情報公開制度、プライバシーの権利、個人情報保護制度について調べ、説明することができる。</p> <p>【資料活用の技能】</p> | 「持続可能な社会を志向する倫理観・価値観」 |
| | 3 | <p>■グローバル化は人権にどのような影響を与えているのかを知る。</p> <p>①国際的な人権発展の歴史について理解する。</p> <p>②国際的な人権保障に向けた動きや組織について調べる。</p> | <p>○グローバル化に伴う人権問題や、国際的な人権保障に向けた組織や動きについて理解している。</p> <p>【社会的事象についての知識・理解】</p> | 「持続可能な社会を志向する倫理観・価値観」 |
| | 4 本時 | <p>■人権が尊重される世の中のために、何が必要なかを考える。</p> <p>①あったらいいと思う新しい人権についてグループで話し合い、考え、発表する。</p> | <p>○認められてきているもの以外の新しい人権について考え、それを発表、提唱する活動を通して、人権の尊重についての考え方をより深める。</p> <p>【社会的な思考・判断・表現】</p> | <p>「持続可能な社会を志向する倫理観・価値観」「多様性の尊重」</p> <p>（道徳：C(10)遵法精神、公德心）</p> |

(実践事例)

社会3年

| | | | |
|--|-------|--|-----------|
| 授業者 | 金田 哲也 | 授業日 | 10月 8日(木) |
| 授業クラス(時限) | | 関係・連携の考えられる教科等と学習内容 | |
| 3年1組(1限) 3年2組(2限) 3年4組(4限) 3年3組(5限) | | 道徳(C(10)遵法精神、公德心) | |
| Society5.0を主体的に生きるための資質・能力 | | 教科等で身に付けたい資質・能力 | |
| ・持続可能な社会を志向する倫理観・価値観 ・多様性の尊重 | | ・認められてきているもの以外の新しい人権について考え、それを発表、提唱する活動を通して、人権の尊重についての考え方をより深める。 【社会的な思考・判断・表現】 | |
| 実社会とのつながり | | | |
| 本単元においては、新しい人権について学ぶ。本時では、まだ提唱されていないような新しい人権について考える活動を行う。活動を通して、人々がより幸せに暮らしていける世の中について考えたり、現代社会に見られる課題の解決を目指したりする考え方を育てることにつなげたい。 | | | |
| 本時の授業のねらい | | | |
| どのような新しい人権があれば、人はもっと幸せになることができるかを考えることによって、人権の尊重についての考え方をより深めることができる。 | | | |
| 授業の流れ・活動等 | | | 時間 |
| 1. これまでに学習してきた人権について振り返る。 自由権、平等権、社会権、新しい人権 | | | 6 |
| 2. 課題の提示 「人権が尊重される世の中のためには、何が必要だろうか」 誰もが、もっと幸せに生きていくことのできる世の中のために、あったらいいなと思える新しい人権を考え、発表する活動を行うことを説明する。 条件 ・これまでに学習してきた人権の枠内では保障できないことを考える ・すでに提唱されているが、まだ尊重されているとは言えないものでもよい | | | 4 |
| 3. 活動(その1) グループで話し合い、考える。 各グループに渡したタブレット端末を用いて法令などを調べてもよい | | | 20 |
| 4. 活動(その2) グループごとに1分程度で発表する。 | | | 12 |
| 5. まとめとふりかえり | | | 8 |

